



建亨雨夜記

伊地知文庫  
文庫20  
191



文庫20  
191

連歌雨夜乃記

宗祇全集抄

全

伊地知工書

宗祇先生子年以尋

伊地知工書

事を世中のいふは

今も志なきは雨夜に

有くは乃ちまて書

はを祇公に授けし

祇公の返に以て

いふは

善加の人は道の頭

先人も承よたな

世がな〜として所ちみ  
らあり連歌の園義  
足有〜とあるは  
年ハ永は十六はちのの知  
さ月のの二年の十はちの  
をらあぬ

宗長判

き歌雨夜記

一前句付句引合はれんひんま  
付句引放せはん別はたる  
句あり

よれくねちをのさ陰

梅之香のさめる月夜神よをて

石前句も引合ハ頼ひく一白梅れ  
かひよさめる月を神よをこして  
ついでるらあぬ

月夜はをたあぬ

色深き秋乃お葉は神をた

引合〜月夜はをたあぬ

あはぬ夏のかきまきかきり 一白  
色原まよ葉よ神まよ川ん

引合ていさむかやくら舞

雪ツメうらな尾との雪を踏ふく

引合ていさむかやくら舞

ゆえんふやくら舞

一白ハ山路れ雪を踏ふく

あはとえはくくは泊舟

沖中の山流はあまの家ありて

引合、沖の山流はあまの家ありて

そのかおよらあまのいさむかやくら舞

あまのいさむかやくら舞

あまのいさむかやくら舞

あまのいさむかやくら舞

吹風よう張る流るあま

あまのいさむかやくら舞

引合て、神前のおまあまの神の

あまのいさむかやくら舞

あまのいさむかやくら舞

あまのいさむかやくら舞

あまのいさむかやくら舞



一 子亦於葉此又字多しなるを

昔は水に氷解なり

雪埋し深谷此ふはまきしめて

石強ゆるを名教あるも我々

精進は免つてまじらぬ

これいふはあはれなるを

今宵月誰の目にも別あはれ

又るはあはれを猶増ゆる

あまのこころはあはれなるを

水もあはれなるを楊柳

あはれなるを

あはれなるを

あはれなるを

あはれなるを

あはれなるを

あはれなるを

あはれなるを

一前々々々のやのなまなやうあり

はらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

海に小船ひらひらと出るはな

一はらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

色くはる秋はたのみの夕日影

一舟白の又文字がうすやうに  
さしはるはらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

こはらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

水まきかきまはらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

よの葉たのみの山河のま

田原はくはらのあはらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

なまはらもや一はきき<sup>し</sup>方のき

稚子写秋は焼くあはらもや一はきき<sup>し</sup>方のき



一前句はとり合ふてなやうあり

かを枯ぬる様はこれ乾

石山路いふ年の尾葉をむすて

むいぬる様とういふは

梅の香はきいふと

あつてを哀に増すは

梅の海を夜はをぬれ月

拙てを竹の陰に位ぬる

氷まきやいふのよのよの

曉き——いあひの清

郭公の虫をすはぬ日、入

一前句、他人の心を我にうつ

さうしてはゆるがあら

おこしはすくはるる地

水々ある川を流すはよゆ

いふはくそふら

いふはくそふら

一 行くと言分かんまを付る面白

振ね、行く、今、その時

祇園、おもしろい、行く

て、おもしろい、行く

二 行く、おもしろい、行く

て、おもしろい、行く

一 行く、おもしろい、行く

一 山類、水色を付、水色よ、山類を

付て、京札を、おもしろい、行く

柳、おもしろい、行く

山、おもしろい、行く

煙、おもしろい、行く

山、おもしろい、行く

一 今朝の秋の夕暮を竹白松翁よ  
とある句

詠みかけ波風たぐ海赤松  
助舟の川そよふはこひたぐ

今よふしあふまふは沖津浪

之田流心れ秋のいろく

一 竹白の中の七文はまな

齋ヒナと一ハナの

ふこと雅波の夕と此の夜

郭公音のあひなつ捨く

うしろ野と庭を成り

あれもき尾さうと此里がで

一 詩れ對白れとくよなる句

我よ一ハナ、八ハチのふ雲

沖津浪月れま里よ身とて

ふたつとちよとちよとちよと

白めは雪の澄はは輝<sup>キラ</sup>つ

山<sup>ヤマ</sup>の月<sup>ツキ</sup>也<sup>ナリ</sup>兔<sup>ウサギ</sup>の<sup>ミ</sup>所<sup>トコロ</sup>

秋の入りよわづらひのちり

一  
前<sup>マヘ</sup>白<sup>シロ</sup>は<sup>ハ</sup>白<sup>シロ</sup>の<sup>ノ</sup>踏<sup>フミ</sup>的<sup>テキ</sup>の<sup>ノ</sup>夢<sup>ユメ</sup>  
毎<sup>ツネニ</sup>白<sup>シロ</sup>

いづれに誰か

もるは<sup>ハ</sup>もるを<sup>ニ</sup>夜<sup>ヨ</sup>か<sup>キ</sup>

我<sup>ワ</sup>誰<sup>タレ</sup>よ<sup>ハ</sup>誰<sup>タレ</sup>の<sup>ノ</sup>空<sup>カラ</sup>

秋<sup>アキ</sup>よ<sup>ハ</sup>月<sup>ツキ</sup>雨<sup>アメ</sup>よ<sup>ハ</sup>一<sup>ヒト</sup>の<sup>ノ</sup>孫<sup>ムスシ</sup>

志<sup>ココロ</sup>の<sup>ノ</sup>け<sup>ケ</sup>の<sup>ノ</sup>空<sup>カラ</sup>

小<sup>コ</sup>萩<sup>ハギ</sup>よ<sup>ハ</sup>秋<sup>アキ</sup>よ<sup>ハ</sup>凡<sup>マン</sup>の<sup>ノ</sup>夕<sup>ユフ</sup>ま<sup>マ</sup>れ

一 へんがきんふくしんまはつとせう

へんがきんふくしんまはつとせう

へんがきんふくしんまはつとせう

へんがきんふくしんまはつとせう

へんがきんふくしんまはつとせう

一 前句よりしんまはつとせう  
きんふくしんまはつとせう

田舎をこゝの物を礼き

一 おもむかし行一しんまはつとせう

誰かきんふくしんまはつとせう

乃の柳はかゝ梅はつとせう

一 へんがきんふくしんまはつとせう

へんがきんふくしんまはつとせう

へんがきんふくしんまはつとせう

他へんがきんふくしんまはつとせう

Il passiva l'azione di questa  
che l'azione di questa

一 ありのうちにやるとは不審  
generally in the

別々にして誰か一人  
母の心を悩ませ  
心を悩ませる  
心の悩ませる

法をたてしむるもの

一 前句は誰か一人はた  
あかひのよとせん

誰か一人はたせん

二つは、おぼしめすの如く

秋のよきとあはれん  
目をあはれんは草の庵

一年の白き雪をまきつゝの

Season of snows

待たせし懐はせしと云捨る

あはれはの葉に風声

あはれはの葉に風声

一 ちの碎<sup>シテ</sup>きいふるの空を

思ふは心はあはれ

白のあはれはの葉に

あはれはの葉に

よき年のあはれは

一 ふうの空を二白く

あはれはの葉に

あはれはの葉に

あはれはの葉に

あはれはの葉に

一 京の乱は京の乱を伴はぬ所あり

左の落はなうはなる

秋の葉はわける月、幽として

煙きつ井の里、木之立

小ねさしはふらふらとぬれ

西落しる野のまをのた

橋のすむらもさく夜をぬく

引ししら 横甲のこを

まの夜の月をいふは一人

一宵はぬらう志望の幸湯

秋の夜のおらふは、清らとく

日とくいしかひらうは書物書

秋がきく原野の末は富きこて

土を山の落の秋のたて

天津ノ沖はくねのは家うて

よししのさのあふはた

中のはのさのあふはた



一 八清、京報の夕

山や嶺ををりて

都に雨をぬはす

一 山、雨をぬはす

六、山、雨をぬはす

八、山、雨をぬはす

水、山、雨をぬはす

一 山の京記

山、雨をぬはす

山、雨をぬはす

一 山、雨をぬはす

山、雨をぬはす

山、雨をぬはす

山、雨をぬはす

山、雨をぬはす

山、雨をぬはす



一 ちうは借る宿の肉とすくへ横あり

横ちうおま、たる、**山**、**山**、**山**

柱とけらなるーれ風

横ちうおま、えは横はる、**山**、**山**、**山**

一 庭よ金とらふ枯の風

ちうは、**山**、**山**、**山**、**山**、**山**、**山**

横ちうおま、庭よ金とらふ枯

不仕家ま、**山**、**山**、**山**、**山**、**山**

一 汲水のま、**山**、**山**、**山**

源田を植る、**山**、**山**、**山**

田を、**山**、**山**、**山**、**山**、**山**

横ちうおま、**山**、**山**、**山**、**山**、**山**

一 ちう分は、**山**、**山**、**山**

ちう分は、**山**、**山**、**山**

ちう分は、**山**、**山**、**山**

横ちうおま、**山**、**山**、**山**

ちう分は、**山**、**山**、**山**

ちう分は、**山**、**山**、**山**

横ちうおま、**山**、**山**、**山**

横ちうおま、**山**、**山**、**山**

ちう分は

三、海に霧をたらす秋風

日暮をしのぶ秋風の境に下りて

一層よき時をたらして秋風をよむる  
但秋風のおそきは

霧の境に下りて

ち水氷に

氷の境に水のことし信を

一層よき時をたらして秋風をよむる

一、海に霧をたらす秋風

あ

霧の境に下りて

ち水氷に

氷の境に水のことし信を

一層よき時をたらして秋風をよむる

霧の境に下りて

ち水氷に

氷の境に水のことし信を

一層よき時をたらして秋風をよむる

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ  
 信よ

たつねよけせのち、まを

前句たる程、まを、まを、

今、まを、まを、

櫻、まを、まを、

前句、まを、まを、

前句、まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

前句、まを、まを、

おの、まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

まを、まを、

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

遠くの人を思ふ

一 一ト云白子社様ニ居らるる御事

おんあつたはらにほりて

乃くはあつたはらにほりて

様とてあつたはらにほりて

喜御のつとむる御事

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

一 又らあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて

おんあつたはらにほりて



五部書に於ては其の意を明かにす

爰に於ては其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

其の意を明かにす

かきかきかきかきかき

ふふふふの福をふふせん

かきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかき

發

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

一物をとらぬ物にふふふふ

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

おはようございます

いそいそと準備中

又おはようございます

Good morning

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おは

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

梅の根よは根もあて

あはれつゝなまよふはらふらん

まゆの敷さかひらなま

うらまは根を<sup>タノ</sup>かききりて

かた向はまよふはらふらん

一梅の根を<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

一あふを<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

山郭公とてゆくはら

こころの<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

まゆの敷さかひらなま

うらまは根を<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

一あふを<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

まゆの敷さかひらなま

梅の根を<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

一あふを<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

まゆの敷さかひらなま

梅の根を<sup>タノ</sup>かききりて捨れあへ

浦凡を権の舞のうらみはなを  
秋のまゝりてはなを

花の清を横にのりて  
花のまゝりてはなを

横にのりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

花のまゝりてはなを

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

Esmeralda's

馬場ばばの事ことの事こと

ありありの事ことの事こと

おれおれの事ことの事こと

送おくの事ことの事こと

子この事ことの事こと

人ひとの事ことの事こと

一ひとの事ことの事こと

茶ちやの事ことの事こと

事ことの事ことの事こと

一  
うたがしきかゝるに  
うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに

うたがしきかゝるに



白のくちのうき高き花

花も文の花のうきあついな

稲たのみのあついな

秋風よあついなあついな

うららかにあついな

おちよきうきあついな

あついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

うきあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

あついなあついなあついな

海の神の御心は  
心持の御心は

一 只と云ふ御心は

只と云ふ御心は

人の世の御心は

人の世の御心は

人の世の御心は

人の世の御心は

人の世の御心は

人の世の御心は

人の世の御心は

一 又と云ふ御心は

又と云ふ御心は

又と云ふ御心は

又と云ふ御心は

又と云ふ御心は

又と云ふ御心は

又と云ふ御心は

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

湖のしんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

しんせうしんせうしんせう

1  
しんせつてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん  
てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

一 國分はあぢの國に父のあぢ  
年ふたむの徳にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

又時よむ徳もあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

徳にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

あぢの國にあらはるる徳

一人のあまねく心をなごませるを綱とせしむ

名高きくしのちるを那

秋風よ清く清くを要として

海のほとりよの南の朝をよ

遠くしむるをよをよをよ

あつちのあつちのあつちのあつち

維波津の首をよをよをよ

なごむるをよをよをよをよ

今をよをよをよをよをよ

あつちのあつちのあつちのあつち

又よをよをよをよをよ

神のよをよをよをよをよ

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

讀みしるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

はるるはるる

枝のむくもふくもあつた管だ  
ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく

ひびくひびくひびく



心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

心の中は静かである

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり

一其の事は我々の事なり



Handwritten cursive text, likely a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a date or location.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

Handwritten cursive text, possibly a name.

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

あはれなる心とて  
あはれなる心とて

草花露 (Kawabata) の花

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

花の香りに似て

Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Geography of the world

日教の地学

Geography of the world

日教の地学

Geography of the world

日教の地学

Geography of the world

日教の地学

重刊の地学

Geography of the world

日教の地学

Geography of the world

日教の地学

一編の地学

Geography of the world

日教の地学



後方より来るもの

沿道に於ける人の声

わが心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

一と指くま白迷懐のこもりから  
あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに

あつた心は静かに



村の北にありて

をくはし海にあり

一 山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

山の上のありて

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

ト一 諸君の御手紙

御座り一 諸君の御手紙

在り一 諸君の御手紙

梅一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

一 諸君の御手紙

又 諸君の御手紙

又 諸君の御手紙

小 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

お一 諸君の御手紙

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a short phrase.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or title.

いふことしつゝ毎朝は家々を尋る

武士の心づからいふ事ありて  
教へて

世に  
おぼろげなるものもあはれ

故に  
あはれいふ事ありて

一  
白鳥よつゝいふ事ありて  
とていふ事ありて

世に  
おぼろげなるものもあはれ

一  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

海つ廣の心づからいふ事ありて

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

世に  
おぼろげなるものもあはれ

次と一歩は三々秋風

指の音の二七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音

其下は二七の音尾の音

一七の音尾の音



1. 江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

1. 江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

1. 江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

江戸の町を歩くと

うららかにあはれしうたを詠む

志の如き物なればの所を詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

一 此よりわねとせむ

おんうららかにあはれしうたを詠む

たのまはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

秋を詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

一 おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

おんうららかにあはれしうたを詠む

一 此と云ふは於業の分り

田の地まゝとす

西の旗も人へは

ふんはとて

ひらいたまは

海はやう

Central mountain

あまの

海へ

一 あまの

分り

あまの

陸へ

都へ

ま

綱

引

右

引捨く麻子ちり夜夜

秋のちりしり秋のちり

うらたの世居妻のちり

いふことさるる旅舞とて

今そそぢりて

文庫抄をよみしり

あつめ

あまの夜のちり

あまのちり

あまのちり

いふことさるる旅舞とて

あまのちり

あまのちり

あまのちり

あまのちり

あまのちり

あまのちり

あまのちり

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

Am. Inst. 18

一 号の白は南極を年一

の東洋秋風を吹く

の国と南極の間に流す

の海流を南極にた

る海流を南極の海にた

る海流を南極にた

る海流を南極の海にた

又らるる海流

の海流を南極にた

の海流を南極の海にた

一 子みまを南極を年一

の海流を南極にた

の海流を南極の海にた

の海流を南極にた

の海流を南極の海にた

の海流を南極にた

の海流を南極の海にた

の海流を南極にた

の海流を南極の海にた

Handwritten Japanese text, likely a signature or name.

Handwritten Japanese text, possibly a date or location.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

Handwritten Japanese text, possibly a name or title.

後の世境よはらへ

花ハナのハナのハナ

うき世の中は

あはれなる世の中

秋の野の草花を

後ノチのノチのノチ

よき世の中

雅楽ヤクとて

清スガくはハのハのハのハ

とてトのトのト

一 世とては

よき世の中

あはれなる世の中

秋の野の草花を

後ノチのノチのノチ

一 世とては



1. The person of the ...  
... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

又 ... ..

... ..

... ..

1. 成敗 ... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金

花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金

花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金  
花 草 木 石 土 金 木 火 水 土 金

一 徳小島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島

一 徳島 徳島

徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島

徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島

一 徳島 徳島

徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島  
徳島 徳島

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes, starting with a vertical line on the left. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. It begins with a vertical line on the left.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. It begins with a vertical line on the left.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. It begins with a vertical line on the left.

公 務 局 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署

長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署

長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署

長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署  
長 官 官 署 長 官 官 署

新  
作  
の  
文  
字  
の  
書  
き  
方  
を  
示  
す  
に  
あ  
る  
本  
の  
題  
は  
「  
The  
Hand  
writing  
Book  
」  
と  
な  
る  
。

一 石印の文

石  
印  
の  
文  
字  
の  
書  
き  
方  
を  
示  
す  
に  
あ  
る  
本  
の  
題  
は  
「  
The  
Hand  
writing  
Book  
」  
と  
な  
る  
。

一 石印の文  
石  
印  
の  
文  
字  
の  
書  
き  
方  
を  
示  
す  
に  
あ  
る  
本  
の  
題  
は  
「  
The  
Hand  
writing  
Book  
」  
と  
な  
る  
。

石  
印  
の  
文  
字  
の  
書  
き  
方  
を  
示  
す  
に  
あ  
る  
本  
の  
題  
は  
「  
The  
Hand  
writing  
Book  
」  
と  
な  
る  
。

一 石印の文

一 園をくぐりてあらはる所

からむゆきゆきのまきむき

白川を渡るのまよふらん

一 下白の傳のまよふらん

妹は意ひの夜やあはれ

心のまよふやえんまよふ

みの清よおらんらん

まよふおのほて

一 是より三河の白

まよふまよふらん

まよふおのほて

妹は意ひの夜やあはれ

みの清よおらんらん

一 舟の白

おらんまよふのまよふらん

まよふおのほて

一 此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

一 此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

一 此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心

此の如き心



りたりとてはるる

まはるるあはるる

夜やあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

あはるるあはるる

一一 陽をすすむ

陽をすすむ

陽をすすむ

陽をすすむ

陽をすすむ

一一 陽をすすむ

陽をすすむ

陽をすすむ

一一 陽をすすむ

陽をすすむ

陽をすすむ

一一 陽をすすむ

一一 陽をすすむ

一一 陽をすすむ

一一 陽をすすむ

陽をすすむ

陽をすすむ

又陰陽をきく登り

物名のとおねを福の自然

又陰陽をきく登り

くまの山カミの假カ名

伯母捨れ目と都のゆき

一かたのふたの葉十文の山カミの假カ名

たの山カミの假カ名

あまの山カミの假カ名

あまの山カミの假カ名

一又くまのふたの葉十文の山カミの假カ名

くまの山カミの假カ名

くまの山カミの假カ名

引山カミの假カ名

一 又んしゆふ歌葉歌てふをえ

よあはれなやあまうん

あまのほろほろのほろほろ

あまのほろほろ

ほろほろのほろほろ

ほろほろのほろほろ

ほろほろのほろほろ

一 又とあふふ歌葉ちひあふをえ

あふあふのあふあふ

あふあふのあふあふ

あふあふのあふあふ

一 又んしゆふ歌葉

あふあふのあふあふ

あふあふのあふあふ

あふあふのあふあふ

あふあふのあふあふ

子のあはれ葉重なる於葉

あはれ葉のあはれ葉

あはれ葉のあはれ葉

誰とてんしあはれ

あはれ葉のあはれ葉

たのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの

重なるあはれ葉

あはれ葉のあはれ葉

あはれ葉のあはれ葉

あはれ葉のあはれ葉

あはれ葉のあはれ葉

餘情の

あはれ葉のあはれ葉

あはれ葉のあはれ葉

音のあはれは夜はかた

一 *Amor* の *Amor*

いふは愛の情を語ら

一 前句の歌

不日西の空に雲の影

いふは雲の影はあはれ

は *Amor* の *Amor*

時を暮るる影はあはれ

各々

一 二句の歌

*Amor* の *Amor*

いふは愛の情を語ら

あはれは *Amor* の *Amor*

各々

一 車ちと葉世れむの持

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

一 旅ちと葉世れむの持

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

一 旅ちと葉世れむの持

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

一 旅ちと葉世れむの持

一 旅ちと葉世れむの持

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

一 旅ちと葉世れむの持

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

旅（あ）のあ（い）ら（ん）の（ま）り（き）

若草の露の白あめ色  
ら 露の露をば 露の露をば

一 夕子ひて可也神

空は日月の田舎を

海は夜

うはもききし初とこれく

御すの思ふは 御すの

生月空しく男麻の心

旅もく可の心はつら

又道し牙の白草の心は

一 長高神

あはの心はつら

人への心はつら

色をば母の心はつら

さらば母の心はつら

くもねえの心はつら

老をば母の心はつら



一 序の巻

あつたはれはきき増す悲し

Spring of the year of the ox is a good one

一 東洋記の連歌

こい波より遠のあはれ

あつたはれはきき増す悲し

清くはるかにあはれ

けしきあはれはきき増す悲し

天は人知事あはれ

あつたはれはきき増す悲し

一 春の巻

春夕のいづれも時宜はれあはれ

あつたはれはきき増す悲し

あつたはれはきき増す悲し

あつたはれはきき増す悲し

Handwritten text in a cursive script, oriented vertically on the right page of the manuscript. The text appears to be a name or title, possibly "Handwritten text in a cursive script".



800

